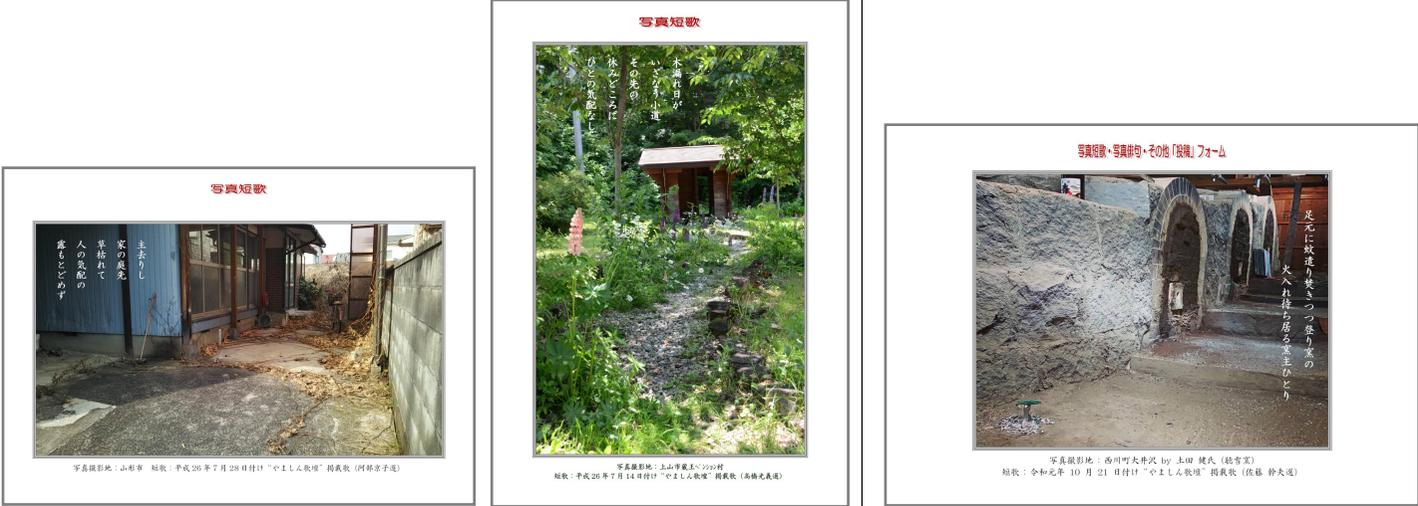


やましん歌壇掲載歌<第5回>

短歌	平成26年3月～平成31年4月		令和1年5月～	
	掲載短歌	<p>H26年7月：主去りし家の庭先草枯れて 人の気配の露もとどめず（*）：阿部京子選</p> <p>H26年7月：木漏日がいぎなう小道その先の 休みどころにひとの気配なし（*）：高橋光義選</p> <p>H26年7月：会合を終えたる昼を軒先の 燕話題に再び賑わう：井上管子選</p>	<p>R1年9月：十五歳父の遺骨を抱き帰る 双葉町の墓に夏の日落ちき：井上管子選</p> <p>R1年10月：足元に蚊遣り焚きつつ登り窯の 火入れ待ち居る窯主ひとり（**）：佐藤幹夫選</p> <p>R1年10月：風鈴に虫の音加わりコンチェルト 主役の代わりはや秋の風：大滝 保選</p>	
写真短歌（*） 同共同制作（**）				
作品数	短歌	86首	短歌	96首（令和6年12月まで）
	写真短歌	38作品（共同制作を含む）		67作品（共同制作を含む）